



カトリックスポーツ大会で神父様ハッスル (9/15)

島のひかり ホームページアドレス

<http://lifeaidgoto.jp/cx/simanohikari/>

発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959-00072
 印刷・(株)才津印刷所

奇跡について

—あなたは奇跡を

信じますか—

主任司祭 小瀬良 明

新約聖書の中には多くの奇跡(ミラクル)の記述があります。私たちは、このような奇跡についてどのように考えたらいのでしょうか。簡単に分類すると、次の四つのテーマに分けることができます。

- (1) 自然現象に関する奇跡
- (2) 病気など医学的なものに関する奇跡
- (3) 人間の生命(死と復活)に関する奇跡
- (4) 霊(聖霊と悪霊)に関する奇跡

四福音書の中には、イエス・キリスト自身が行なわれた多くの奇跡の記述があり、使徒行録(信徒言行録)にはイエス・キリストの弟子たちが行なった奇

跡について、いくつか記述されています。

① 自然現象に関する奇跡

(a) 嵐を静める

イエスと弟子たちが湖上で突然の嵐に遭い、弟子たちは慌て恐れて「主よ、助けて下さい」と声をあげる。イエスが風と湖とお叱りになると大嵐になった。(マタイ・8の23〜27、マルコ・4の35〜41、ルカ・8の22〜25、ヨハネ・6の16〜21)

(b) 湖上を歩く

イエスは弟子たちに先に舟で行くように言われ、後で湖上を歩いて弟子たちの舟に近づいて行かれた。弟子たちは湖上を歩いておられるイエスを見て、幽霊だと思い叫び声をあげる。イエスが舟にお乗りになると風は止み、目指す目的地に着いた。(マタイ14の22〜30、マルコ6の45〜52)

次号へ続く

聖ドミニコ 小瀬良神父様の 霊名を祝う

八月八日が聖ドミニコのお祝いであったのですが、色々な行事が重なり、八月二十日に開催することとなった。この準備として、神父様への霊的花束を一周間実施し、神父様のために祈りました。

この日、ミサ後に祝賀式があり、赤尾栄議長よりお祝いの言葉が述べられた。



お祝いの言葉を述べる赤尾議長



子どもたちにケーキのプレゼント

続いて、子どもより霊的花束の色紙と生花の花束が贈呈され、盛大な拍手の内に式を終えました。夕方からは神羊館に於いて、沢山の信徒と共に食事が行なわれた。子ども達も参加し、神父様のために元氣一杯、歌を披露しました。

神父様も大変、喜ばれていたようです。楽しいひとときを過ぎることが出来ました。

神父様、これからもお元気で私達信徒の御指導を、よろしくお願い致します。

下五島地区親善スポーツ大会

九月十日、大津港公園を会場に、下五島地区カトリック協議会主催によるゲートボールと、ペタンク大会が盛大に行なわれた。

各教会の選手の他に、司祭団チームとシスターチームも加わり、大熱戦を繰り広げた。

この日は初秋にもかかわらず、真夏を思わせる暑い日差しの中、試合もヒートして行く。

浦頭教会チームは、ゲートボールをする者がなく、ペタンクのみの参加となった。



大水シスター頑張れ

大熱戦の末、結果は優勝―奈良留島チーム。準優勝―司祭団チーム。三位は―浦頭Bチームが入賞し、和やかな気持ちで帰路に着いた。その後、神羊館にて慰労会があり、おいしい酒を酌み交わした。ある人曰く「いつも浦頭ばかり優勝するから、三位ぐらいが丁度よかたい」「そうだね」と、一同納得。
次回の大会に向けて練習、練習。



私たちの黙想会

七月二十四日、小学生の黙想会が水ノ浦教会で行なわれた。その時の感想文です。

五年 鍋内 楓蓮(かれん)

みずのうら教会から、くすはら教会まで来る時に、とてもきつくて私は頭がいたくなりしました。だけど、つかまった人たちは、その道があるいて、きつい思いをしたり、ぼつをうけて、苦しい思い、いたい思いをしたりしたけど、信こうを守ってきた人たちは、すごいなあと思いました。これこそ、まえ小瀬良神父さまがけいこで言った、神さまが「うれしい」とか、喜んでくれることだと、一番に思いました。

私は、ときどき教会に行きたくないと思う時があります。だけど昔の人が、苦しい思いをしながら守ってきけてくれたものをむだにしないように、もっ

と一つ一つの祈りを大切にしていきたいと思えます。

五年 白濱 結羽(ゆう)

私は黙想会に参加して、水ノ浦教会から、くす原牢屋あとの山道を登りました。坂や下りがたくさんあって、私は足がいたいし、もういやだなと思いました。だけど、ろうやに入れた人も、死ぬかくごで山をきついなながら登ったから私もがんばらないとな、思っ

て最後まで歩き通せました。くす原牢屋あとについてからは、牢屋の話(テープ)を聞いたり、見学をしたりしました。その中でも、ろう屋の中の写真や図を見ました。たくさんの方がろう屋に入れられ、たくさんの方がキリスト信者だと言いきったことに、とても感どうしました。だから私も神様の教えを守った人たちをみならって、たくさんお祈りをしようと思えました。

五年 鍋内 理子(りこ)

今日の黙想会では、昔の人が死をかくごして通った道を逆に進んでいったけど、けっこう上がり下りがはげしくて、きつくて大変でした。木が橋みたいにかかっているところや、道がめちゃくちゃ細くてこわかったところもあるけど、ながめがいいところや、きのこがたくさんあるところもあって、すごいなと思いました。こんなにすぐく大変な道を通って、死をかくごしながら進むなんて、すごくかこくで悲しいことだなあと思いました。

楠原牢屋跡にも行きました。見て最初に思ったことは、やはり小さくてせまいなあとということとです。あんなにせまくて小さいところに、たくさんの方が入れられたら私的には、ストレスがたまりそうと思います。なんとなくかわいそうだと思います。こんなに大変な思いをしてきたのに、いざ家に帰っても悲しい思いをしなくてはいけません。

ことに、私はこういうことは絶たいにあってはいけないことだと思います。

五年 濱崎 奏多(かなた)

今日、もく想に参加して思った事があります。一つ目は、キリスト教を守った人たちが、ろうやに入れられてくるしんだこととです。ぼくは、なせろうやに入れたのか不思議です。ぼくは、山を登るのがとってもきつかったです。登っている時、少しぐあいが変わるくなりました。でも、最後は全部下りで少しきつかったけど、空斗君と歩いていたらあまりきつくなかったです。

信じゃが歩いたとこを歩いてそのことを気づいていず、なにも思わず歩いてしまいました。信じゃはイエスを大切にしていたと思うので、もっとおいのりやイエス様を大切にしていきたいです。

五年 木口 空斗(そらと)

今日、もく想会に参加して、思ったことは、キリストを信じている人たちが、苦しみながら山道があるき、ろうやにいれられたことです。キリストを信じているだけのこと、なぜ苦しみを与えるのか不思議に思いました。ほかに、キリストを信じている人たちは、キリストを信じたら、苦しい思いをしないと、いけないことを知っているのに、キリストを信じてをやめたかったことは、そのときは、とてもゆうきがいます。むかしのカトリックの人たちは、すごいと思いました。ぼくは、おいのりをいつもより大切にします。



五年 小田 凜花(りんか)

私が黙想会を通して学んだ事を紹介します。一つ目は巡礼です。巡礼するきよりは、約三口を約二時間から三時間で巡礼しました。山道はとてもわしく、歩くところはとても高く、「巡礼している間に、足をすべらせて命を落とした人はいなかっただろうか。」と思いました。山道は、木の根でこけたり、土ですべったりしたので、殉教者は、こんな厳しい試練にあいながらも、神様、主イエス・キリストを信じ続けたことをほこりに思いました。また、楠原牢屋に入れられても、一人も亡くならなかったのは、私はきっとみんなではげまし合ったからこそ生き延びたんだと思います。二つ目は、楠原牢屋にとじ込められた人々の生き延びたことについてです。『一つ目』にも書きましたが、私は主に二つの事を成しとげたからだと思います。それは、①続ける・守る②

努力・はげますです。一つ目の

続ける・守るについては、さむらい達から、たたかれたり、けられたり、なぐられたりしても、「絶対、守るぞ」という信者にとっての、主イエス・キリストを守り続ける熱い気持ちに感動しました。二つ目は、努力・はげますについては、牢屋に入れられて、苦しい思い、つらい思いをしながらも「主イエスを信じてると良い」という言葉を信じ、はげましあったからこそ、生き延びたんだと思いました。

私は、「守り続けると約束する」という決意、それは殉教者たちのように、どんなにいじめられても、からかわれても自分の身にながらおきろうが、しっかりキリスト教を守っていく、という決意を守る約束をします。

六年 鍋内 玖怜彩(くれあ)

今日、もく想に参加して思った事、感じた事は二つあります。

一つ目は、むかしの人は長い道のりを歩いてまで信仰を守ろうとしていた事を知って「ありがたいな」と思いました。

自分の足で、自分が殺される場所かもしれない所へ歩いて行くのは、一步一步がとても重かったと思います。でも、そんな中でも信仰を守り続けてきてくれた先祖に、感謝しようと思います。

二つ目は、イエス様の力はすごいなと感じました。何百年、何千年と続く信仰をつくったイエス様は、すごいなと思ったし、それをうけつぐ現代人と、むかしの人達を誇りに思えます。

私はこれから、お祈りを面倒くさがらず、しっかりしようと思えます。



侍者旅行

8月1日
〜
2日

(佐賀宇宙科学館の思い出)

三年 鍋内 翔吾(しょうご)
今年もじしゃりょこうにいきました。今年は、宇宙科学館とメルヘン村にいきました。宇宙科学館では、さいしょにプラネタリウムにいきました。次に宇宙サイクリングという所について、つなわたりのようにサイクリングしました。そして、化石をみたり、地しんのたいけんもしました。夜はホテルにとまってバーベキューもしました。

次の日にメルヘン村にいきました。さいしょは小さい動物園にいった、シマリスやウサギを見ました。次にどんとうむしコースターにのりました。おもしろかったのも、あとで三回のりしました。次にドラゴンにのりました。その後は、きしゃにのりました。そのあとにそのおみやげを買ってかえりました。

三年 小田 蒼海(そうみ)

私はじしゃりょこうに行って一番たのしかったのは、うちゅうかがくかんです。そのわけはみたこともないどうぐがあったからです。その中でも、マイナス20のところですよ。とってもつめたくて、こおりそうでした。でも、ほっきょくの氷をさわれてよかったです。あと五回いきたいです。



楽しかった侍者旅行

三年 木口 みう

じしゃりょこうでたのしかったことは、バーベキューをした

ことや、うちゅうかがくかみやメルヘン村にいったことなどなど、友だちと、いっしょにたのしめてよかったです。バーベキューでは、いろいろなものをやいたのしかったです。うちゅうかがくかんで、マイナス20の所にいけてよかったです、メルヘン村では、ほとんどただでのせてくれてうれしかったです。またシスターや神父様、友だちといきたいです。

四年 鍋内 孝志(こうし)

じしゃりょこうにつれていってくれてありがとうございます。また。

うちゅうかがくかみやメルヘン村につれていってくれて、それにバーベキューもしてすごかったのしかったです。バスでいんなことをくわしくはなしてくれて、おもしろかったです。

ホテルもすごく二だんベッドに初めてねて、すごくきもちよくねれました。ゆめさいとに行ったらアイスもおごってくれて

うれしかったです。またじしゃりょこうにつれていってください。

四年 鍋内 大蔵(だいぞう)

ぼくがじ者旅行に行ったら楽しかったのは、うちゅう科学館で遊んだりしたこと、おもちゃ売り場でスパーボールをいっぱい買ったこと、飛行機の運転の体験をしたことです。

メルヘン村で楽しかったのは、どんとう虫コースターやチェリータワーに乗ったこと。うれしかったのは、チケットなしで、どんとう虫コースターに何回も乗れたことです。

じ者旅行は楽しかったです。また行きたいです。ぼくたちをつれていってくれて、ありがとうございました。



中村長八神父様の 生涯を追って②

神学校に入学した長八少年は、神学やラテン語、フランス語等の勉強に励み、一八九七年には司祭に叙階していきます。それは、入校から十七年後の事でした。それから二週間後には、二十六年という長い歳月を過ごす事になる、本土のはるか南にある奄美大島でのミッションが告げられます。

奄美大島の布教活動は、長崎司教任命のフランス人神父によって五年前から始まったばかりであり、信徒数が拡大している最中であつた。一八九九年時点で、信徒数は一三三五人と記されている。彼が同島に在任中には名瀬の大火災があり、又、一九一一年には強い地震により、多くの信者が家を失った。当時、中村神父は海沿いの小村、手花部を布教の中心とし、又、その後、同島の信者の一大中心地である

浦上の布教活動に邁進まいしんした。

中村神父は才気にあふれ、寛大な心を持った人であつた。その心は、信徒以外の人達にも大きな信頼をもたらした。

そんな中村神父に、大きな転機をもたらすであろうプロジェクトが、奄美大島から遠く遠く離れた南米ブラジルで起きようとしていた。

時は一九二一年、大正十年の事です。ブラジルの首都リオデジャネイロ在住のローマ法王の使節エンリコ・ガスパリから駐伯はく日本公使に一通の文書が届きます。

現在の日本人の移民は数万に及ぶ様になり、その多くの人は文化施設にとぼしい農村地帯に住んでいる。彼らに精神的慰安をもたらしてくれる適当な人を日本から来てもらう様にとり計らってくれないだろうか。

同じ様な考えを持っていた堀口公使は早速、公使館職員、特派員、駐在員と話を重ね、一つの結論に達します。

地元シスターにズームイン

ふるさとの思い出

純心聖母会 Sr濱崎 久美



あれは私が十代の頃であつたか、台風が過ぎ去つた後、ある日のことである。父が板を外し廊下の雨樋を開け始めた。差し込んできた光のまぶしさと同時に、目の前に飛び込んできたのは、大きく傾いたミカンの木であつた。あまりにも変わってしまった光景に驚きながら、この木、もうダメになるのかな？と考へていると、父がミカンの木に綱を巻き始めたのである。

何事かと思つていると、「木を引っ張り起こすから、みんな出てきて引っ張れ！」との号令。その時の様子は、はっきりと覚えていないが、とにかく家族み

んなで力いっぱい引っ張り上げミカンの木が立ち上がった。という記憶だけはしっかり残っている。その努力に応えるように木は元気を取り戻した。

今年も家に帰り、しみじみとミカンの木を眺めた。昨年なりすぎたのか、今年はあまり実をつけていない。だが、今年もまた黄色く色づいた実が海を越えてくるのだろう。この木のように生かされている恵みに感謝し、応えていけたらと思う。

同じ教会のカマメシの糧を 食べた仲間

純心聖母会 Sr赤尾 綾



先日、中高時代を共に過ごした仲間（一人は物心ついた頃からの友）と久々に集まり、楽しい時間を過ごしました。

よく「同じ釜の飯を食べた仲間」と言いますが、本当に特別な絆を感じます。

これは、同じ教会で過ごす信徒同士にも言えることではないでしょうか。「飯」は「ご聖体」。

世界中同じイエス様ではありますが、浦頭教会という同じ釜を囲んで過ごした日々は特別なものだと、離れてみてますます感じていきます。「けいこ」が始まるまで時間いっぱい遊んだり、教会の中ではしゃぎすぎて神父様にゲンコツをもらったことも良い思い出です。そこで同じ時間を過ごした仲間達には、何か家族のような絆を感じます。この夏も教会に響く祈りの声を聞いて、あったかい気持ちになりました。皆様、お元気で!!

私達、結婚しました

暖かな家庭めざして

木口 大地

私たち木口大地・木口（旧姓渡邊）阿佑美は、八月八日に籍

を入れ結婚いたしました。九月

九日には結婚式を行い、その時、皆様よりお祝いの言葉をいただき、誠にありがとうございます。皆様より頂戴した言葉を胸に、

二人で協力して、あたたかい家庭を築いていきたいと思えます。

阿佑美の出身地は大村で、五島に知り合いがないので、大変なことも多々あると思えます。

また、未熟な二人なので心配をかけることもあると思います。

その時は、あたたかい目で見守ってくれと助かります。地域の

行事や教会にも出来るだけ参加しようと思っているので、私たち二人を見かけることがありま

したら、声をかけていただけると非常にうれしいです。

私たち二人は、今現在、福江の大荒町にアパートを借りて生

活しています。大荒町には私の友人も住んでおり、ゼロからの

スタートではありません。先日、友人の家にふたりで遊びに行き、

阿佑美も友人も、お互いに仲良くできそうだったので、少しだ

け安心していきます。

お互いに内向的な性格のところもあります。それでも、一歩

一歩しっかりと二人で人生を歩んでいきたいと思っています。

ご迷惑をかけることもあるかもしれませんが、努力していきま

すので、あたたかい目で見守ってください。これからもよろしくお願いします。



“ありがとう”

この度、「島のひかり」へお

たよりや御芳志等の御協力を頂き、ありがとうございます。

少子化、高齢化の進む中であります。小教区の現況を綴り

続けていきたいものです。

浦頭 川口 榮 遺族 様
浦頭 小瀬良 神父 様

秘

跡

《結婚》

九月九日

フランシスコ 木口 大地

渡邊阿佑美

《帰天》

マリア

赤尾 文子 浦頭 八十二歳

九月十二日

ヨゼフ

川口 榮 浦頭 八十八歳

九月十五日

マリア

中尾 キヌ 平蔵 八十六歳

十月十一日



ふるさとだより

諦めるな！魅せる笑顔！
世代を超えて輝け奥浦魂

「んっ？雨？」九月二十四日、奥浦小中市民合同運動会が開催された。小学校一年生にとっては、初めての運動会。ちょっと不安ながらも先輩達の指導に励まされ、やり遂げた。中学三年生は子ども達の先頭に立ち、最後の運動会に燃えた。大人たちは地区の優勝を懸けて奮闘。しかし、気持ちに体がついていないことを悟った。

開始前のポツリポツリの雨もふっとばし、ちょうどいい曇り空。世代を超えて輝いたぞ！



輪廻しハッスル

ナイターペタンク大会



準優勝した濱崎チーム

十月三日から六日までの四日間、恒例のナイターペタンク大会が行われ、一三一チームが参加しました。恒例行事なだけあり、みなさん上手な方ばかりだなと、いつも思います。

今年も熱戦が行われ、各チームの一喜一憂する姿が、様々なコートで見られました。焼鳥の出店も初登場。皆様、四日間、大変お疲れ様でした。

採れたと！

椿油



九月二日、恒例になった椿油作りの最初の行事。奥浦小学校のまわりに植えられ、実をつけるまで大きくなったかたしを、面白そうに矢継早に袋の中に突っ込んでいく。今年は平年に比べて実の成りが少し少ないと聞いていたが、子供達の頑張りもあり、昨年と同じぐらいの量が採れ、次の椿油作りにしっかりとつながっていきましました。

十月七日、奥浦小学校の子供達が、先生方のサポートを受けながら乾燥させた椿の実を、あぶんぜビジターセンターに持ち込み、職員の出口さんの協力を得ながら、椿油作りにチャレンジ！臼と杵を使って細かく砕き、最後はフライパンで熱しながら水分が蒸発し、黄金色に変わる瞬間、その時を待ちます。

「ワッ！きれい」
子供達がつぶやきました。

編集後記

朝夕の冷え込みが厳しくなり、スキの穂が色づいてくると、だんだんと秋の深まりを感じられるようになります。

食欲、読書、スポーツの秋。この浦頭小教区でも、スポーツの秋にふさわしい小中地区合同運動会や、平和のぼら保育園の運動会、計131チームで争われた奥浦町造り協議会主催のナイターペタンク大会などのイベントが開催され、信者の方のみならず、地区の方々も一緒に大きな盛り上がりを見せました。近年、町造り協議会を中心に、浦頭教会も巻き込んだ様々な催しや取り組みで地域全体が一体となり、活気が出て来れています。地区、教会の垣根を越え、皆で協力しながら、この盛り上りを継続して行きたいですね。

木口 誠也